

○ 5·6年生の自宅から,高台 へ避難する道を学区を8地区(10 グループ)に分け,作成する。

※ 児童と教師だけでは、昔から の道や危険箇所・様々な施設を 十分に調査できない。



○ 地域の方の協力を得ながら、 避難マップを作成する。

# ア)避難マップ作成の意義とマップマーク作り



- 津波の被害の状況をDVDで 視聴し、「命を守る」ために学区 の避難マップ作りの必要性を理 解する。
- 避難マップ作成のためにマッ ツマークを考える。 (GT:町教育委員会指導室長)

# イ)フィールドワークに向けて準備

○ 地区ごとにボランティアの方と打ち合わせをし、調査ルートや見てくるポイントの確認をする。





# ウ) フィールドワーク

○ 地域調査のポイントを各グループ ごとに調査に地域ボランティアの方 と出かける。



- 危険箇所だけでなく、井戸水の場 所や110番の家などの調査も合わせ て行われた。
- フィールドワーク後、実際に調査 したことを地図上に書き込みを入れ た。

# エ)まとめと避難マップ作成

- 調査した内容を地図にまとまる。
- 地域ボランティアの方の情報をまとめる。

地区ごとの避難マップ
大貫小学区の避難マップ



# 地域へ広がるために命を守るフォーラム

- ・全校児童, 保護者, 地域の方々対象
- ・ポスターセッション(5,6年生発表)
- ・「命を守る」宣言



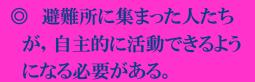
# ⑤防災教室Ⅲ

(避難所設営と運営)

### 被災体験からの課題

- 経験がなかったために混乱 が見られた。
- 役場やボランティアの方に 頼りすぎて、避難所のモラル が乱れた。









- 学校を避難所に見立てて、 運営や開設の仕方など体験し てみよう。
- 身の回りにある物を使って、 避難所で過ごしてみよう。



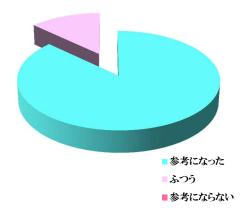
# 避難所体験活動の様子から



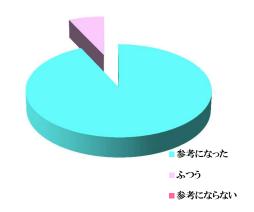
# IV 実践から見えてきたこと

## 1 防災教室(第1回)に参加して

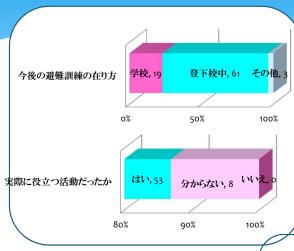
### 防災教室に参加して



### 救急法及び煙体験について

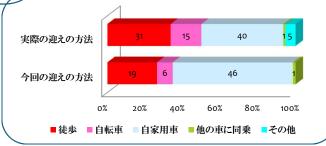


# 2 避難訓練・引き渡し訓練から



# 引き渡し方法について 学年部別に受付をする。 Ta・住所の確認で引き渡しをする。 実家庭で引き渡しをする。 0 20 40 60 80 100





# 3 2つの活動後のアンケートから

- 保護者や地域の方々の津波への意識が高い。
- 様々な状況の中で、避難訓練を実施する必要があると 考えている保護者が多くいる。

(登下校中の要望が高い)

- 学校教育活動の中で、応急処置など基本的な活動も 取り入れて行く必要がある。
- 避難訓練を定期的にこのような取組をしてほしい。
- 引き渡し訓練の実施について、実際をシュミレーション して取り組んでほしい。

# 4 避難マップ作成





- 地域ボランティアの方とのかかわりを通して、学校の中だけでは分からなかったことまで調査することができた。
- ガイダンスや各活動の中で、GTや地域ボランティア・保護者がかかわることで、児童の意欲が高まり、積極的に活動する姿が見られるようになった。

◎高学年として、学んだことを伝える活動 (命を守るフィーラム)

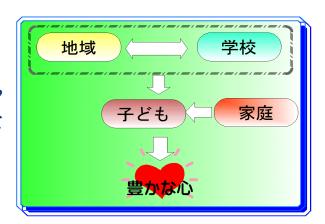
# V まとめと今後の課題

### 1 地域との連携から見えてきたこと

学校と地域が連携することによって、活動の広がりと深まりが生まれてくる。特に校外活動などは、 活動の幅が広がり児童にとって地域を深く理解す

る機会を得ることができた。
さらに防災という視点で,

地域とのかかわりを大切にし、 活動することによって、地域と ともに生きていく「大貫っ子」 の心を育てることができた。



### 2 これからの大貫小学校に求められること

- 「地域とのかかわりを大切にする教育」の充実によって、児童を取り巻く環境の幅が広がり、児童一人一人を 見守るサポーターが増えることになる。
- これらのことは、地域との関係が希薄になっている現代 社会では、保護者にとっても、大切なことだと気付き始め ている。
- 学校教育の現場で、地域との連携を図りながら取り組む活動を大切にしていくことによって、児童一人一人の心の中に人とのつながりを大切にする心を育て、様々な学びを広げ深めていくことになると考える。
- 地域との連携の充実を図りながら、地域と共に歩む学 校づくりを大切にする。



ご静聴ありがとうございました。